



http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/

「体験取材特集」卒業生の社会活動に密着！

卒業生の幅広い社会活動の一部を体験取材でレポート



平成庭園・源心庵 [写真: まち8期 鳥羽山]

9期生クラス探訪 入学して5ヶ月、1年次の各クラスの学びの様子を伺いました

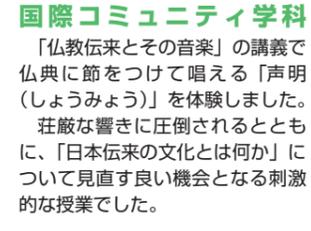
江戸川まちづくり学科

「種探し」から始まった授業で、一番の印象は篠崎ビオトープの自然体験でした。身近に多種多様な生物が生息している環境の発見です。五感をフル活動すると、いろいろなものが見え、感じられました。



子ども・子育て応援学科

私たちの学科は16名、うち男性が4名、女性が多いため賑やかです。子育て経験豊富な方、地域に貢献したい方、お孫さんの成長を見守りながら通われている方、入学の動機は様々ですがこの学びの場を大切にしています。



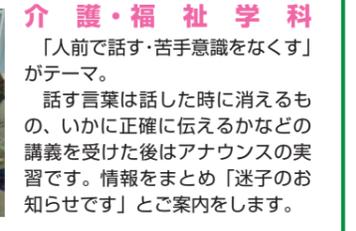
国際コミュニティ学科

「仏教伝来とその音楽」の講義で仏典に節をつけて唱える「声明(しょうみょう)」を体験しました。荘厳な響きに圧倒されるとともに、「日本伝来の文化とは何か」について見直す良い機会となる刺激的な授業でした。



介護・福祉学科

「人前で話す・苦手意識をなくす」がテーマ。話す言葉は話した時に消えるもの、いかに正確に伝えるかなどの講義を受けた後はアナウンスの実習です。情報をまとめ「迷子のお知らせです」とご案内をします。



人 生 大 学 地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。
(* 学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

卒業生と在校生の交流ーパソコンサポートの会

卒業生と在校生担当委員によるパソコン教室
社会活動に必要なパソコン教育を体験レポート



12月26日(水)9:55~12:00 江戸川総合人生大学第二講義室で行われたパソコン講習会「ワードで名刺を作ろう」に参加しました。講師は国際6期の長谷川さん。その他の会員・委員は受講者のサポートにあっています。(講師、サポーター役は毎回交代で行うそうです)講師の説明に従いワードで名刺ができるまでを、不明な点はサポーターに助けていただきながら学びました。名刺が完成した時には、嬉しくて思わず歓声も上がりました。分かりやすい指導で安心して参加できました。
パソコンサポートの会は2005年に、津組 博之さん(まち1期) 故鈴木 圭一郎

さん(介護1期)品田 正子さん(国際1期) 小林 恵美さん(子ども1期)の4名が、授業の中で発表資料やプレゼンをパソコンできたり、メールで連絡を取り合えたら良いのではないかという思いで、始めた活動です。
江戸川総合人生大学がタワーホール船堀に在った当時は、勉強会の場所や練習用パソコンの調達、インターネットの接続などに苦慮していました。そんな中、事務局の江戸川区情報政策課(パソコンの調達)や葛西第二中学校(インターネット接続)へのコンタクト、勉強会の場の提供などの協力もあり、次第に活動の幅が広がっていききました。こうした経緯を経て、現在に至っています。
この会は、会員と委員(各学級から選出の在校生)で運営され、卒業生・在校生で互いに協力し合って活動していることが特色だと思います。受講対象は江戸川総合人生大学在校生・卒業生。講習内容は、「はじめの一步」から徐々にステップアップしていきます。講習会はほぼ毎月1回行われます。会員・委員はサポ

ーター講習、スキルアップ講習など自己研修を重ねています。
この会が長く続いているのは、パソコンについて一から学べること、「親切・丁寧」な指導、受講料が安価、ほぼマンツーマンのサポートなどだからなのでしょう。江戸川総合人生大学の課外授業のような役割も果たしています。分かりやすく丁寧な指導で、ちょっと難しそうと思った課題も「やればできる」という自信がもてるのです。
パソコンサポートの会はパソコンの操作だけでなく、こんな貴重な体験ができる素晴らしい会だと思います。



取材: 大塚 恭子(まち8期)、寺田 佳子(国際8期)
榎本 清一(介護9期)

同窓会の窓



第6期の同窓会活動は新しい仲間を迎え「地域に貢献する魅力ある同窓会活動を全員で展開しよう」をスローガンに掲げ、卒業生のみならず在校生や一般の方にも見える形で活動をスタートしました。
昨年立ち上げた江戸川総合人生大学ボランティア連絡会(人大ボラ連)の卒業生グループの活動は大学のモットーである「学習から実践」を実現し、地域の活性化に貢献しておりますがそれぞれ課題を抱えています。そこで今期は人大ボラ連の皆さんと連携し、グループ運営の課題や問題解決をと

もに考え、活動しやすい環境を築き上げたいと思います。
又、組織として行動するには情報の価値が重要視されますのでスピーディな情報発信と共有化に努めます。昨年末に立ち上げた「同窓会のホームページ」をさらに充実させ、会員外の皆様にも発信していきたいと考えております。ぜひ閲覧ください。
同窓会会長 川瀬 隆弘(国際4期)
同窓会ホームページ <http://jinseidaidousou.web.fc2.com/>
人大ボラ連メールアドレス jindaiboraren@yahoo.co.jp

えどがわエコセンターの毎月開催しているイベントをご存知ですか？

特定非営利活動法人えどがわエコセンターは、「もったいない運動えどがわ」を広め、一人ひとりが環境に配慮して暮らす「日本一のエコタウン」の実現を目指しています。えどがわエコセンターではさまざまなエコライフをご紹介しますが、毎月「太陽エネルギー利用講習会」「おもちゃの病院」を開催しています。太陽エネルギーの活用や解説、おもちゃドクターによる壊れたおもちゃの修理を行っています。

イベント名	日程	時間	会場	内容
1 太陽エネルギー利用講習会	毎月第2土曜日	10:30~12:00	タワーホール船堀3階 えどがわエコセンター多目的ルーム	太陽光発電、太陽熱温水器の仕組みや設置について解説します
2 おもちゃの病院	毎月第2土曜日	13:30~15:30頃まで	同上	先着20名ほど 壊れた幼児用おもちゃの修理をします

*詳細は「広報えどがわ毎月1日号」で公開します。
【問い合わせ先】特定非営利活動法人えどがわエコセンター 電話:5659-1651 FAX:5659-1677 メール:edogawa-ecocenter@bz01.plala.or.jp



編集後記

東日本大震災からもうすぐ2年、一日も早い復興が切望されます。我々も風化させることなく支援を続けていかなければならないと改めて痛感します。
さてこの情報紙の編集委員会も今回から体制が変わり、8期生と新規参加の9期生が主力となり、7期生から引継ぎを受けながらの編集となりました。
特集では幅広い分野での卒業生の活発な社会活動を、自ら体験して臨場感のある記事の作成を試みましたが如何でしたでしょうか。
今後とも読み甲斐のある魅力的な情報紙を目指し努力したいと思っていますのでご意見をお寄せ頂くとともに、ご指導・ご支援をお願いします。

編集長 土井 芳夫(国際8期)

編集:「ひと あい えどがわ」編集委員

- [7期生] 井上真、齋藤彰吾(まち) 寺本孝行、矢島芳男(国) 小田口清美、鹿野恵子(子) 永田光恵、武藤孝(介)
- [8期生] 大塚恭子、鳥羽山晟(まち) 寺田佳子、土井芳夫(国) 大西奈津女、佐久間鐵雄(子) 石井房江、八武崎美子(介)
- [9期生] 犬飼キヨ子、衣川章嗣(まち) 菅谷洋子、峯岸和英(国際) 黒山三千代、宍戸チ子、水野真紀子(子) 榎本清一、笹田直子(介)

発行日 / 2013年(平成25年)3月1日 発行 / 江戸川総合人生大学

〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ

卒業生の社会活動体験取材

幅広い分野での卒業生の積極的な社会活動を体験！

工夫を凝らした魅力的な活動の一部をご紹介します。

新川げんき会

新川あさ市を訪ねて

取材：鳥羽山 晟(まち8期)、衣川 章嗣(まち9期)

新川げんき会は、江戸川総合人生大学7期生を中心に結成され、歴史ある「新川(旧船堀川)」の歴史検証と研究、護岸の美化、緑化運動を推進し、美しく元気な川辺の環境づくりを企画、提案しています。



テントでの販売

また、多くの人々の憩いと安らぎの場所づくりを実現するために社会活動として毎月第1・第3日曜日の月2回新川護岸の清掃活動を実施するとともに、新川あさ市の開催など幅広い活動を行っています。現在会員は14名とのことです。12月15日(土)午前8時、二人で、新川げんき会主催の「第4回新川あさ市」を訪ねました。

新川あさ市は、新川を憩いの場とする催しの一環で、新鮮、うまい、安い、安心、楽しさいっぱいを目的として出店や文化的イベントが行われています。

当日は、時々小雨がパラつく寒い日で、朝早くから準備を始めあさ市が始まる9時まで、何度かテントを動かすなど設営をし大変でした。

今回は4回目代表の矢島 芳男さん(国際7期)に伺ったところ、毎回出店者が増え、来場者も平均200人位になるとのことでした。

あさ市は、区内の新鮮野菜、海産物、花卉・花苗、その他出店者自慢の品々が満載でした。品物の一例は、くだもの、佃煮、手作りパン、小松菜そば、小松菜発泡酒などです。スケッチ画展やスケッチ大会もありました。スタンプラリーもでき、参加した子ども達には駄菓子のプレゼントが喜ばれていました。

伝統工芸品では、「江戸ゆかた」の高橋さんが店を出されておりました。高橋さんはまちづくり8期生の授業「種探し」で、大変お世話になった方です。



活動紹介パネル展示

「新川げんき会」の今後益々の活躍を期待しながら、佃煮を買って帰ってきました。

次回の新川あさ市は3月31日(日)の予定、詳しくはブログでも。

URL <http://ameblo.jp/shinkawagenkikai/>

活動拠点：新川
活動頻度：毎月第1・第3日曜日の月2回、あさ市は年4回開催
代表：矢島 芳男(国際7期) va5wm2@bma.biglobe.ne.jp

国際江戸端会議

多文化共生を目指して

取材：菅谷 洋子(国際9期)、黒山 三千代(子ども9期)
宍戸 チイ子(子ども9期)、水野 真紀子(子ども9期)

定刻30分前の午後1時、教室のドアが大きく開き、ドア表示が掛けられた。

【日本語教室「日本語サロンedobata」】idobataでなくedobataにご注目。黄色い紐のネームカードを胸にかけた会員が、教室型に置かれていた机と椅子を、小さい対面型コアに直している。ドアの傍に受付が置かれ、教科書・茶菓・コート置きなどのコーナーが配置よく並べられる。教科書コーナーには色々な日本語学習書が20冊ほど置かれ、外国人学習者の日本語力に応じて選ぶ仕組み。



真剣なまなざし

1時30分を過ぎると、学習者が次々として、白い紐のネームカードと、「学習履歴個人表」を受け取り、レッスンが始まる。

今日は受付に置かれていた6種類のトピックスが教材として使われていた。これは会員が新聞や雑誌の記事から選んできたもの。その一つ、「日本の年中行事一成人式」を学習者に声を出して読んでもらい、「お国では成人は何歳ですか」などと質問をしながら会話の幅を広げてゆく。

「国際江戸端会議」は、2006年、端 計子さん(国際2期)ら7名が、「江戸川区に住む外国人と日本人が助け合って暮らせるコミュニティ」を目指して立ち上げた。その後、趣旨に賛同する外部からの会員も加わりさらに活発に。このサロンを訪れる外国人は、中国、韓国、インドなど年間延べ700人にのぼるといふ。

レッスンは原則として1対1を理想とするので、会の当日外国人の生徒さんが何人来るのか、当日参加する会員で対応できるのか、前もって予想がつかないのが悩みの種だそう。ちなみに、今日の出席は学習者17名、会員19名。これからも、江戸川区在住の外国人の方々がより一層日本に親しみを抱いてくれるような企画を考えて、楽しいサロンにしたいという会員の皆さまの熱気が伝わってきた。

レッスンは原則として1対1を理想とするので、会の当日外国人の生徒さんが何人来るのか、当日参加する会員で対応できるのか、前もって予想がつかないのが悩みの種だそう。ちなみに、今日の出席は学習者17名、会員19名。これからも、江戸川区在住の外国人の方々がより一層日本に親しみを抱いてくれるような企画を考えて、楽しいサロンにしたいという会員の皆さまの熱気が伝わってきた。



授業風景

活動拠点：清新町コミュニティ会館
活動頻度：毎土曜日 13:30~15:30
代表：端 計子(国際2期) keikohata@clilas.net

江戸川みまもり隊

安心して暮らせるまちづくりを！

取材：佐久間 鐵男(子ども8期)、大西 奈津女(子ども8期)
犬飼 キヨ子(まち9期)、峯岸 和英(国際9期)

「住み慣れた地域で安全に安心して暮らせるまちづくりに貢献したい」と江戸川1丁目にお住いの約1,500人の熟年の方々を対象として、6期・7期卒業生が中心となり2011年7月に発足した地域支援ボランティアグループです。

高齢者の方のお住まいを個別訪問して、安否を確認する「みまもり活動(週3回)」と地域の方が気軽に寄り添える場として「地域のお茶の間」を月に1回開くのが活動の2本柱です。



みまもり活動の様子

「みまもり活動」に同行させていただきましたが、オレオレ詐欺多発の下での個別訪問なので、必ず二人一組で制服着用、家の中には入らない、先方に迷惑になるので雨の日は訪問しない等々の気配りが大切とのこと。

路上や軒先で“みまもり隊だより”や“みまもり・ねっと”を手渡しして詐欺への注意を呼びかけたり、健康状態や生活の出来事を尋ねたり、不在のお宅はポストに郵便物がたまっていないかなど安否確認をしました。

「突然の訪問で最初は少し不審がられたが(笑)、訪問回数を重ねると親しく対応してくれるようになった」「今は困っていることはないが、何があるかわからないから頼りにしている」など、さまざまなお宅がありました。95才の一人暮らしの女性が「足が弱くて思うように外出ができない。江戸川みまもり隊に来てくれて、いろいろな人と話ができて楽しい」と話されていたのがとても心に残りました。

悩み事や相談事がある場合は、江東園熟年相談室と連携を取り、その解決を図っています。

取材に伺った日はもう一つの柱「地域のお茶の間」の日で、蒸しパンを手作りしながら和気あいあいとした雰囲気地域の方々がひと時を過ごしておられました。

現在は江戸川総合人生大学卒業生17名を含む総勢22名で活動されており、今年1月から江戸川2丁目への拡大を目指すなど活発に活動していますが、「継続して活動することが何よりも大切」と代表の伊久美さんが語っておられたのが印象的でした。



メンバーの皆さん

活動拠点：江戸川みまもり隊事務所(江東園となり)
活動頻度：週3回
連絡先：伊久美 明(介護6期) a.193@heart.ocn.ne.jp

おとこの台所・江戸川

男の料理の輪を広げたい

取材：土井 芳夫(国際8期)

朝9時のグリーンパレス。会員7名が集合し「おとこの台所・江戸川」の活動がスタート。リーダーの小島洋宣さん(介護7期)から5種類30人分の料理レシピと食材の説明を20分受けた後、「けんちん汁」と「茸の炊き込みご飯」の準備を担当する3名を残し、取材者を含め5名で食材の調達に。28種類もあり軒では揃わず二軒目へも。



会員の皆さん

食材が揃い10時から料理をスタート。「鮭のワイン蒸しアサリソース」「青梗菜と帆立の炒め物」「つるつる鶏ときゅうりの酢和え」を二人一組で分担。「おとこの台所」から想像していた「素朴な簡単料理」とは大違いの「手の込んだ本格的料理」に戸惑いながら、ゲストを迎える12時に間に合わすべく、不慣れな腕で悪戦苦闘。途中参加の会員2名と女性2名の応援を得て、リーダーの厳しい指導も受けながら何とか時間内に完了しました。

5つの調理台にそれぞれ6人分の料理と椅子をならべ29人の昼食会。ゲスト(600円/人)は介護7期の女性を中心に他の学科・期の方も。ゲストからのお世辞抜き「おいしい」とのお褒めの言葉に調理の苦勞も報われ、皆で1時間の昼食会を楽しみました。

介護7期の男性全員で2012年の6月に立ち上げて今回が7回目。料理経験はほとんどなかったそうですが、その後の努力で「本格的料理」を提供できるようになり達成感一杯の様子でした。

きっかけは授業で「世田谷おとこの台所」を知ったこと。「離職後に家に引きこもりがち男性を誘い出すには料理が最適と思った。料理が多すぎるとか難しいとの意見もあるが、敢えて有料で大勢のゲストに提供することにより緊張感と充実感が出てくる」とリーダーの小島さん。「今は基礎作りの段階だが、今後一般の会員(60歳以上の男性)を広く募りたい。また活動拠点も増やしたい」と今後の方針も語って頂きました。

昼食会後はクラス会を開き卒業後の絆維持を図るなど運営にも工夫されており、今後の活躍・発展が期待される活動だと思われました。

昼食会後はクラス会を開き卒業後の絆維持を図るなど運営にも工夫されており、今後の活躍・発展が期待される活動だと思われました。



料理審判中

活動拠点：グリーンパレス or 東部フレンドホール
活動頻度：毎月第3木曜 9:00~13:00
連絡先：富松 孝昭(介護7期) tomimatu.takaaki@cream.plala.or.jp